

報告

地域医療に関わる 地域別意見交換会（8）

江差町・新ひだか町

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

平成20年度より開催している本意見交換会を今年度は江差町と新ひだか町で実施し、通算13回となった。当会からは、長瀬会長ほか役員が出向き、地元医師会役員、会員等から地域の生の声を伺った。

両会とも冒頭、長瀬会長、地元医師会長の挨拶後、当会から「地域医療再生計画」「緊急臨時的医師派遣事業」「北海道の航空医療体制」など地域医療に関する取り組みについて説明した。続いて「各圏域における地域医療の現状と課題」をテーマに意見交換を行い、北海道保健福祉部幹部も傍聴した。

【江差町】

8月2日（火）午後6時30分からの江差町での意見交換会には、檜山医師会の鶴谷会長をはじめ役員・会員12名に参加をいただいた。

南檜山圏域における地域医療の現状と課題のテーマで行った意見交換では、経田桧山医師会副会長が座長となり、まず、大岩道立病院室参事から「南檜山地域医療再生計画」の事業概要ならびに進捗状況を説明した。続いて大城桧山医師会理事から、医師が不足している中、南檜山医療圏の中核病院である道立江差病院の医療スタッフの献身的な努力により医療が維持されているが、住民側も危機感を持ち2008年5月に「地域医療を守ろう、道立病院を守ろう第1回集会」を開催し、その後、住民や医療・行政関係者等が「南檜山の医療を考える草の根の会」を結成。集会、勉強会、ミニコミ誌「ずなこま」の発行等の住民運動につながっているが資金面で苦慮している現状が報告された。また、地域周産期母子医療センターに指定されながらも、分娩ができない道立江差病院をはじめ周辺の自治体病院、離島である奥尻町の医師不足は極めて深刻な状況にあるため、地方への医師派遣体制の充実強化に関する要望や公務員の兼業許可など柔軟な対応を求める意見が寄せられた。

【新ひだか町】

9月1日（木）午後6時30分から新ひだか町で開

催した本年度第2回の意見交換会には、日高医師会の小松会長をはじめ役員・会員12名と研修医2名、日高振興局より3名に参加いただいた。

日高圏域における地域医療の現状と課題をテーマとした意見交換では、藤井日高医師会副会長が座長となり、医師・看護師の確保および病診・診診連携に焦点を絞って行われた。

日高圏域は地理的に横に広く、どの地域でも医師確保が困難な状況にあるので、自治体病院等の広域化・連携を進めるべきであるが、スキー場等の観光資源への影響や日勝峠での交通事故の対応が求められることなどから、無床化にはできない地域事情もあるとの意見があった。

看護師確保では、看護専門学校卒業生の7割程度が地元に残るが、半数以上が3年で退職する傾向が見られ地元への定着率が低い問題があり、効果的な修学資金の活用など話題となった。また、地元の高校生はもとより中学生の段階から「将来は医師・看護師になりたい」と意識するような病院研修に取り組んでおり、継続していききたいとの報告もあった。

病診・診診連携については、苫小牧や札幌の医療機関と連携しているケースは多いが、圏域内は広域なためあまり進んでおらず、医師会を通じて会員同士の意思疎通が必要との意見もあった。長時間搬送は患者の負担が大きいので、専門医をアクセスしやすい所に配置できれば、高齢者に苫小牧などの医療機関を紹介することも少なくなり、通院が大変だと治療をあきらめる事例も減少するが、医師不足の中、現実的には困難な状況にある。

小松日高医師会会長からは、昨年より総務省の地域ICT（情報通信技術）利活用広域連携事業で、新ひだか町立静内病院を中心に三石国保病院や日高町門別国保病院、札幌医大、苫小牧市立病院、王子総合病院がWebによる画像配信機能搭載の画像管理やカンファレンス等のシステムで連携しており、今後は、医療資源の有効利用のため、圏内の医療機関にも拡充し、「日高圏域バーチャル総合病院」確立を目指していると報告いただいた。

日高での研修中に参加された研修医は、今回、OBが勤務している診療所を見学し地域医療に興味を持ったので、総合臨床医として経験を積み、出身の北海道に戻りたいと述べた。

最後に傍聴された北海道保健福祉部の白川部長より、医師確保対策の抜本的な解決策は見出せないが、本日伺った意見を踏まえて、国に対して道医、医育大学、市町村と連携して提言していきたいとコメントがあった。



平日の夕刻の開催にもかかわらず、ご出席いただいた各位に、改めてお礼申し上げます。伺った意見について、北海道をはじめ関係各所に対し、さまざまな機会に提起していきたい。